



# ウメモト インフラオメーション



2020年6月10日

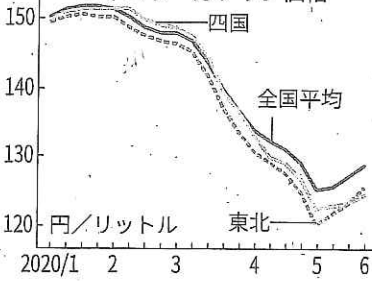
担当者: 山本裕二

ガソリンの店頭価格で地域差が広がっている。年初には全国平均の1リットル150円前後で各地域がおおむね収まっていたが、足元では四国や北海道、東北の3地域が全国平均を3〜4円下回っている。新型コロナウイルスでガソリン需要が減少したことで安値販売に拍車がかかっている。資源エネルギー庁によると、2020年初の全国平均は150.1円で、九州と沖縄を除き150円前後に収まっていた。原油価格の下落を背景に下落し6月1日時点のレギュラーガソリンの全国の平均店頭価格は128.

## ガソリン 広がる地域差

### 四国や東北、全国比3〜4円安

四国や東北で安値が続くレギュラーガソリン価格



(出所)資源エネルギー庁



新型コロナウイルスでガソリンの需要減は続く(都内の給油所)

## コロナで需要減 安値販売に拍車

・4円だ。全国平均を大きく下回るのは四国(124.1円)、北海道(124.4円)、東北(125.4円)で、全国平均より3〜4円程度安い。

ガソリン価格は5月11日に安値を付け上昇に転じている。3地域も値上がりしているが、全国平均より安いまま。3地域は以前からガソリンの販売競争が激し

い。香川県の市場関係者は「新規参入の給油所が大幅に価格を下げたため、周りも追随せざるを得ない状況だと漏らす。激しい販売競争の背景にあるのが石油元売り系

列でないプライベートブランド(PB)の給油所が多いことだ。PBスタンドは元売りで余ったガソリンを商社などから買付け、割安な価格で販売する。価格競争力があるため、PBスタンドが多い地域は安値販売が激しくなりやすい。四国の全給油所数に占めるPBスタンドの割合は推計で約29%、東北は約30%、北海道は約25%といずれも全国平均(約24%)を上回る。PBスタンドの多さに加えて、新型コロナウイルスによる移動自粛で車の往来が減り、ガソリン消費が冷えることが安値販売の一因となっている」と話す。(山本裕二)

引用記事

日本経済新聞

燃料油脂新聞

化学工業日報



# ウメモト インフォメーション



2020 年 6 月 10 日 担当者: 榎野

2020/6/10

フェノール、6月大口が上昇 4か月ぶり :日

## 日本経済新聞

朝刊・夕刊 ストーリー Myニュース 日経会

トップ 速報 マネー 経済・金融 政治 ビジネス マーケット テクノロジー 国際 オピニオン

マーケット > 商品 > 商品ニュース > 記事

商品ニュース

### フェノール、6月大口が上昇 4か月ぶり

環境エネ・素材

2020/6/9 18:20 | 120文字

保存 共有 印刷 共有 ツイット その他

合成樹脂などの原料となる基礎化学品のフェノールの国内大口価格が4か月ぶりに上昇した。三井化学などが決める価格は6月分が1キロ233.4円と、前月に比べ10.0円（4.5%）高い。値決めの指標となるベンゼンの国内価格が上昇したことを反映した。

保存 共有 印刷 共有 ツイット その他

2020 年 6 月 10 日

担当者: 岩崎

## 亜麻仁油が最高値

### 4～6月大口 中国の消費増映す

塗料やインキなどの原料となる亜麻仁油の国内価格が上昇している。4～6月期の大口需要家向け価格は1キロ339円（中心値）と1～3月期に比べ7.5円（2.2%）高い。2017年末から最高値で横ばいが続いていたが、世界的な需給の引き締めから原料

調達コストが増え、過去最高値となった。中国での消費増が背景にある。製油大手は「新型コロナウイルスの影響はあるものの、中国の消費は伸びている。工業用

だけでなく食品用も好調」と指摘。現在、世界の亜麻仁油の消費量約74万トンうち、3分の1にあ

たる約27万トンが中国で消費されているという。

亜麻仁油の原料は亜麻の種。最大生産国であるカザフスタンでは干ばつの影響で減産となった。また、生産量3位のロシアではコロナに伴う物流の混乱もあり、世界的な供給量は減少している。

日本国内では需要はあまり振るわないが「原料調達コスト上昇を受け、値上げが需要家に受け入れられた」（製油大手）。